

写真でつづる松本の思い出

あとの「あとの」にも書いたように、私の青春は信州・松本の地で過ごした信州大学の時代であった。1967年から71年までの4年間である。政治的にはベトナム戦争や沖縄返還をめぐって揺れ動き、経済的には日本が「経済大国」の仲間入りをして、大阪万博といったお祭りに酔いしれていた時代であった。大学も学生運動が盛り上がり、「紛争」によりキャンパスが封鎖されたりして、落ち着いて講義を受けられない状態がつづいた。信州大学人文学部も例外でなく、長期間にわたってキャンパスに入れない状態がつづいた。今からは想像もつきにくい大学生活であった。

私のホームページに短い「レポート」を書き始めて3ヶ月ほどになる。思いつくままに書いてきたものだ。講義などに活用したり、ささやかな「情報発信」の場として、今後とも書いていくつもりだ。

最近になってデジカメから取り込む「技術」を学んで、「レポート」に写真を載せることができるようになった。私にとっては大きな「進歩」である。文章ばかりで味気ない「レポート」が少しはビジュアルになったと自負している。せっかくなので、昨年5月に松本で普通のカメラで撮った写真をデジカメに移して、松本の思い出を写真でつづろう。まずは松本の駅前である。どこの駅前も画一化して魅力に欠けるが、松本も昔のような風情がなくなってしまった。この駅前の通りをデモ行進したのが懐かしい。次に「あがたの森」の公園であり、昔の校舎の一部が残っている。旧制高校の雰囲気はただよう校舎で、寒さに震えた講義が思い出される。キャンパスは当時からヒマラヤ杉で覆われ、その一角に「どくとるマンボウ青春記」で有名な思誠寮があった。



(6月26日記)